

株式会社メイワ

2017年度環境活動レポート
(対象期間：2017年4月～2018年3月)



作成日：2018年6月1日

□ごあいさつ

当社は「アイデアとテクノロジーの融合」を目指し、冷熱事業、自動機事業の2つの柱で、品質管理を重視し、開発を続けてきました。徹底したニーズ志向で、時代の要求に応える製品づくりに努めています。

社訓である「個性を尊重し、特徴ある企業に高めよう」「豊かな人間関係、生活の向上を目指し社会に貢献しよう」を達成するため、常に環境の保全を意識し、環境に配慮した製品づくりを行い、豊かな循環型社会の構築に貢献します。

株式会社メイワ

代表取締役 高橋 正和

株式会社メイワ 環境方針

<基本理念>

わが株式会社メイワは、地球環境の保護・保全・改善が人類共通の最重要課題であることを深く認識します。

当社が行う事業活動において、全社一丸となって地球温暖化の防止、資源循環の促進ならびに環境への汚染防止に努める活動を実施します。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ① 当社の全事業活動において、環境影響を考慮し、環境負荷の低減に努めます。
 - ② この環境改善活動は、継続的に実施し、廃棄物の削減、汚染予防、及び省資源・省エネルギーに努めます。
 - ③ 環境にやさしい製品の開発、製造に努めます。
 - ④ 環境改善への取組は、全従業員へ周知させるとともに、公表し、誰もが当社の取組みを閲覧できるようにします。
3. 環境への取組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日：2007年10月1日

代表取締役社長

高橋 正和

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社メイワ

代表取締役社長 高橋 正和

(2) 所在地

本社・本社工場 和歌山県紀の川市長田中345-1

和歌山工場 和歌山県和歌山市島86-1

東京営業所 東京都港区芝1-11-16 ニチリンビル3階

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務グループ グループマネージャー 岡 徳治 TEL : 0736-73-7300

担当者 総務グループ リーダー 岡井 延彦 TEL : 0736-73-7300

(4) 事業内容

機械器具製造業

主要製品：圧力容器、熱交換器、冷凍機器、自動包装機械 他

(5) 事業の規模

製品出荷額 53億00百万円（2017年度実績）

| | 本社 | 和歌山工場 | 東京営業所 |
|-----------|--------|-------|-------|
| 従業員 | 132名 | 20名 | 2名 |
| 延べ床面積 (㎡) | 9987.2 | 1257 | 51.57 |

(6) 事業年度 2017年4月～2018年3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社メイワ

本社・本社工場

和歌山工場

東京営業所

対象外：なし

活動：冷熱・空調機器及び自動包装機械等の開発・設計・製造・販売

□主な環境負荷の実績

| 項目 | 単位 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-----------|--------------------|---------|---------|---------|---------|
| 二酸化炭素総排出量 | kg-CO ₂ | 622,351 | 604,351 | 604,568 | 912,324 |
| 廃棄物排出量 | kg | 130,443 | 153,039 | 177,777 | 168,492 |
| 一般廃棄物量排出量 | kg | 35,120 | 39,430 | 37,550 | 37,486 |
| 産業廃棄物排出量 | kg | 95,323 | 113,609 | 140,227 | 131,006 |
| 総排水量 | m ³ | 13,988 | 12,118 | 13,881 | 13,296 |

上記二酸化炭素総排出量には灯油を含む。

※電力の二酸化炭素排出量換算値を2017年度より見直した。

0.311 kg-CO₂/kWh → 0.493 kg-CO₂/kWh

(関西電力の2016年度調整後排出係数による)

□環境目標及びその実績

| 項目 | 年度 | 基準値 | 2017年 | | 2018年 (2017年を基準とする) |
|------------------|--------------------|---------------------|-----------------|---------|------------------------|
| | | (基準度) | (目標) | (実績) | (目標) |
| 電力の二酸化炭素排出量削減 | kg-CO ₂ | 400,892 | 616,432 (注1) | 722,653 | 715,426 |
| | 基準年比 | (2012年) | 153.8% | 180.3% | 99.0% |
| LPGの二酸化炭素排出量削減 | kg-CO ₂ | 179,536 | 174,150 | 149,158 | 147,666 |
| | 基準年比 | (2012年) | 97.0% | 83.1% | 99.0% |
| 自動車燃料の二酸化炭素排出量削減 | kg-CO ₂ | 41,889 | 40,635 | 33,273 | 32,941 |
| | 基準年比 | (2012年) | 97.0% | 79.4% | 99.0% |
| 上記二酸化炭素排出量合計 | kg-CO ₂ | 622,317 | 831,217 | 905,084 | 896,033 |
| 一般廃棄物の削減 | kg | 24,050 | 23,329 | 37,486 | 37,111 |
| | 基準年比 | (2012年) | 97.0% | 155.9% | 99.0% |
| 産業廃棄物(可燃ごみ) | kg | 22,360 | 22,136 | 29,760 | 29,462 |
| | 基準年比 | ※計量方法を変更 (2015年) | 99.0% | 133.1% | 99.0% |
| 廃油・汚泥の削減 | kg | 9,210 | 8,934 | 5,270 | 5,217 |
| | 基準年比 | (2012年) | 97.0% | 57.2% | 99.0% |
| 廃プラスチックの削減 | kg | 2,540 | 2,464 | 0 | 0 |
| | 基準年比 | (2012年) | 97.0% | 0.0% | #DIV/0! |
| 節水 | m ³ | 15,401 | 14,939 | 13,296 | 13,163 |
| | 基準年比 | (2012年) | 97.0% | 86.3% | 99.0% |
| グリーン購入 | 購入率 | 38.1% | 42.0% | 31.7% | 32.0% |
| | | (2013年) | 110.2% | 83.2% | 101.0% |

(注1) 電力の二酸化炭素排出量目標値の換算値を0.311から0.493kg-CO₂/kWhに見直した。

(関西電力の2016年度調整後排出係数による)

※化学物質については、生産と連動しており、削減対象と出来ないため、適正管理に努めます。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ほぼできた △あまりできなかった ×全くできなかった

| 取り組み計画 | 達成状況 | 次年度 | 評価（結果と次年度の取組内容） |
|----------------------------|------|-----|---|
| 電力による二酸化炭素排出量の削減 | | | |
| 数値目標 | × | | |
| ・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃） | ○ | 継続 | 下期の高負荷対応で2交代生産を行ったため、電気使用量が大幅に増加。 次年度は工場内環境改善の為、空調システムを導入する予定となっており、効率化等による電気使用量削減に取り組む。 |
| ・不要時の消灯 | ◎ | 継続 | |
| ・空気圧縮機のエア漏れ点検・修理 | ○ | 継続 | |
| ・省エネ設備の導入 | △ | 継続 | |
| LPGによる二酸化炭素排出量の削減 | | | |
| 数値目標 | ○ | | |
| ・省エネ表示を行う。 | △ | 継続 | 2交替生産の影響により、下期は使用量が増加したが、通期では目標達成。 設備メンテナンスを継続する。 |
| ・設備メンテナンス | ○ | 継続 | |
| 自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減 | | | |
| 数値目標 | ○ | | |
| ・エコドライブ | ○ | 継続 | 効率的な出張を行い、目標達成。 |
| ・積載オーバーをしない | ○ | 継続 | |
| 一般廃棄物の削減 | | | |
| 数値目標 | × | | |
| ・分別の徹底 | ○ | 継続 | 受注の増加・海外購入品の増加に伴う梱包材の増加があり、廃棄物が増大。 通箱を積極的に運用していきたい。 |
| ・裏紙使用の徹底 | ○ | 継続 | |
| 産業廃棄物（可燃廃棄物）の削減 | | | |
| 数値目標 | × | | |
| ・分別の徹底 | ○ | 継続 | 部門毎・生産量比の廃棄物量を管理することとし、指標とする。 |
| ・部門毎の廃棄重量把握 | ○ | 継続 | |
| 産業廃棄物（廃油・汚泥）の削減 | | | |
| 数値目標 | ○ | | |
| ・発生量の抑制 | ○ | 継続 | 充填テストのサンプル品は基本的に返却するものとしている。 |
| ・再生引取り | | | |
| 産業廃棄物（廃プラ）の削減 | | | |
| 数値目標 | ○ | | |
| ・発生量の抑制 | ○ | 継続 | 再資源化体制がうまく機能している。 継続して取り組む。 |
| 節水 | | | |
| 数値目標 | ○ | | |
| ・オーバーフロー水の供給自動化 | ○ | 継続 | 節水の意識も高まっており、目標達成。 |
| グリーン購入 | | | |
| 数値目標 | △ | | グリーン購入量はほぼ一定だが、トータルの購入量が増加しておりグリーン購入の割合が減っている。 |
| ・事務用品グリーン購入の呼びかけ | ○ | | |
| 製品への環境配慮 | | | |
| 数値目標 | | | |
| ・環境配慮製品の販売促進 | × | | 省エネ・環境改善性能のより一層のアピールが必要。 |

□環境関連法規等の遵守状況及び違反訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

| 適用される法規制 | 適用される事項（施設・物質・事業活動等） |
|-----------|---------------------------|
| 廃棄物処理法 | 一般廃棄物、産業廃棄物（金属ガス、廃プラ、廃油等） |
| 騒音規制法 | 空圧機、送風機 |
| 振動規制法 | |
| 消防法（危険物） | 塗料・シンナーの保管、消防設備の点検 |
| フロン排出抑制法 | 業務用空調機、エアドライヤ、チラー |
| 自動車リサイクル法 | 営業用乗用車、トラック |

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

ガス・ガソリンの使用量、廃棄物量の削減は一定の効果が出ている。環境配慮製品については、省エネ性等をアピールし、販売増加につなげたい。

エコアクション21活動も5年となり、これを機に来年度から目標値を新たに見直す。

改善事項の維持継続と更なるアイデアで環境面から社会貢献を目指す。

□環境活動の紹介

- ・太陽光発電（100kW）を設置し、環境活動に努めています。
- ・工場周辺に緑化地帯を設け、環境に配慮しています。
- ・LED照明・省エネタイプ空調等を積極的に採用し、CO2排出量削減に繋げています。
- ・廃棄物の分別を積極的に行い、リサイクルによるCO2排出量削減を推進しています。
- ・梱包材の通箱化を推進しています。

太陽光発電用パネル写真

